

概要

2015年 善光寺御開帳記念講座 【続・古典を読む -歴史と文学-】

第1回 越中立山と善光寺 - 仏の道がつなぐ霊場と信仰 -

開講日時： 4 / 11 (土) 午後2:30～4:20

講義会場：金鵝会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：富山大学 人文学部 歴史文化コース 教授
鈴木 景二 (すずき けいじ) 先生

概要：北アルプスの北部に位置する立山連峰は、山岳信仰を基盤とする平安時代以来の霊場であった。そこには観音信仰・地獄の見立て・女人救済、さらに阿弥陀信仰など多様な信仰があった。いっぽう善光寺は白鳳時代以来の歴史をもち、一光三尊の阿弥陀如来を本尊とし、女人救済を特長とする日本の代表的霊場として多くの人びとの信仰を集めてきた。

立山は、関西から北陸を通過して善光寺へ向かう沿道にいちするので、平安時代末の僧重源が白山・立山・善光寺と歩んだように、続けて参詣する人びとがいた。彼らの交流などにより善光寺の信仰が立山の信仰に影響を与えたことを、牛山佳幸氏が指摘している。

この講座では、両霊場の信仰をふり返り、牛山氏の研究を参照しながら、立山に残された善光寺信仰の痕跡を確かめ、双方の影響、両地を結ぶ交通路のあり方などについて考えてみたい。

新幹線の開通によって長野と富山の交通が注目されるいま、改めてこの地域を結ぶ道の歴史を見直すきっかけになれば幸甚である。